

令和5年度 国語科年間学習（評価）計画 第6学年

令和2年度版『ひろがる言葉 小学国語 六上』

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 思考・判断・表現（◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと） ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（1）・言語活動例（2）〉	時	学習活動	評価規準
4	－	六年生で学ぶこと				
4	－	言葉で伝え合おう	－	－		
4	2 (話す聞く2)	自分に質問してみよう	◇自分のことを客観的に捉えて話す。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒◎思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見を区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒思判表A(1)ウ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア	1・2	◎クラスのみんなに聞いてみたい質問を出し合い、考えを交流するという学習の見通しをもつ。 1. みんなへの質問をカードに書く。 ・教科書の例を参考にしながら、質問を考える。 2. カードを引いて、質問を決める。 3. 質問にどう答えるか、考える。 ・自分で具体的な質問を考えて答えを書き出す。 4. グループで発表する。 5. 感想を伝え合う。	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。（【知識及び技能】(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。（【思考力、判断力、表現力等】Aア） 【態度】積極的に自分のことを客観的に捉え、今までの学習を生かして質問について考えようとしている。
4	1	風景 純銀もざいく	□繰り返しの響きや意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒◎知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	3	1.『風景 純銀もざいく』を音読する。 (1) 1連・2連・3連で、見えたり、聞こえたりしたことを考える。 (2) 音読して気づいたことや気になったことを挙げ、交流する。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。（【知識及び技能】(1)オ） ◎【知技】文章を音読したり朗読したりしている。（【知識及び技能】(1)ケ） ◎【思判表】人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ 【態度】進んで言葉の意味を考え、繰り返しの響きや意味に気をつけて音読しようとしている。
	2	あの坂をのぼれば	□言葉の意味に気をつけて音読し、言葉の意味を考える。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒知技(1)ケ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ	4 5	◎学習の見通しをもつ 確かめよう 1. 全文を音読し、言葉の意味を考えたり、確認したりする。 考えよう・深めよう 2. 登場人物の心情が分かるところを見つけ、心の動きを想像しながら声に出して読む。 (1) 登場人物の心情が分かるところを見つける。 (2) 登場人物の心の動きを想像しながら声に出して読む。 広げよう 3. すてきだと思う情景について、感想を話し合う。 ◎学習をふり返る。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（【知識及び技能】(1)カ） ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（【思考力、判断力、表現力等】Cエ） 【態度】進んで言葉の意味を考え、学習の見通しをもって音読しようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項 (1) ・言語活動例 (2) 〉	時	学習活動	評価規準
4	3 (書く3)	図に表して考えよう	■考えや意見を図に書いてまとめる。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆全ての学習：ノート作りに活用できる。	1	○教科書を読んで、考えを広げたり、まとめたりする際には、いろいろな図があることを知り、学習の見通しをもつ。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)
				2	1. 実際に考える図を使ってみる。(随筆や意見文を書く際に使う。)	◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)
				3	2. 意見をまとめるノート作りを、学期に15分程度の1モジュールずつ確認し、交流する。	【態度】粘り強く伝えたいことを明確にしようとし、学習の見通しをもって考えや意見を図に書いてまとめようとしている。
					○学習を振り返る。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
4～5	11 (書く6)	一 筆者のものの見方や感じ方などにふれ、随筆に親しもう	△■自分に重ねながら随筆を読み、それを参考に、自分のものの見方や考え方を深め、経験したことなどを表現を工夫して書く。			
4	3 (書く1)	春はあけぼの	△『枕草子』の文章にふれ、リズムや響きを味わいながら音読し、『枕草子』ふうの文章を書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 ⇒◎知技(3)ア △古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。 ⇒知技(3)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒◎思判表C(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ ☆総合的な学習の時間・道徳：古典の響きに親しみをもち、昔と現代の違いや共通点について興味をもって調べたり、関心を高めたりする。	1	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 1. p. 22 を読み、教材の概略をつかむ。 2. 教師の範読に合わせて読み、リズム等をつかんで、原文を繰り返し音読する。 3. 各「季節」の情景をイメージする。	◎【知技】親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(〔知識及び技能〕(3)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ)
				2・3	4. 好きな「季節」の文章を、大意を参照しながら、何度も音読する。 5. 自分の感じる季節感を『枕草子』ふうに書いて、交流する。	【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって『枕草子』ふうの文章を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	3	薫風 「迷う」	□筆者のものの見方や感じ方などに触れ、随筆に親しむ。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。⇒思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ ☆道徳：随筆の読みをとおして、真理を大切に、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくしようと考える。	4	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 二つの随筆を読んで、筆者が取り上げているものや、どのような思い出、事例を挙げているのか確かめる。 (1)「薫風」のもともとの意味を確かめ、それに対して筆者(黛さん)はどのようなものを「薫風」の例に挙げているのか考える。 (2)それぞれの「薫風」に対する筆者(黛さん)の思い出を、ノートにまとめる。 (3)「迷う」「迷わない」の事例や、事例に対する筆者(日高さん)の考えを表にまとめ、それぞれの事例や筆者の考えについて話し合う。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。(〔知識及び技能〕(1)カ)
				5	考えよう 2. 二つの随筆を比べ、話し合う。 (1)二つの随筆を比べ、①取り上げている具体例は何か(何を通して)。②個性的な表現はどうか。③筆者独自のものの見方・考え方は何か。について話し合う。 (2)「薫風」に、黛さん独自の意味を加えたことで、どのような効果があったのか話し合う。 (3)「迷う」ことに対して、日高さんがどのように考えているについて話し合う。	◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cア)
				6	深めよう 3. それぞれの随筆に対する感想をノートにメモして、紹介しあう。 ○学習をふり返ろう	◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ)
5	5 (書く5)	随筆を書こう	■心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書く。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知・技能(1)カ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒◎知技(1)ク ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒◎思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ ☆総合的な学習の時間など：卒業文集を作成するときに活用できる。	7	○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ)
				8	決めよう・集めよう(重点) 1. 書く事柄を決める。 ・仮のテーマ「風」について、どのような経験があるか考える。	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(〔知識及び技能〕(1)ク)
				9・10	組み立てよう(重点) 2. 体験や事例を書き出し、自分の考えをまとめる。 書こう・読み返そう 3・4. 読み返しながらかく。	◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア)
				11	伝え合おう 5. 友達と読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ)
						【態度】積極的に随筆の特徴について理解し、学習課題に沿って心を動かされたできごとから書く事柄を決め、随筆を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
5	1	漢字の広場 ① 三字以上の熟語の構成	△三字以上の熟語の構成について理解を深め、由来に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「少人数」「保健室」「身体測定」という熟語の意味を考える。 2. p. 46の説明にそって、三字と四字の熟語の構成について知る。 3. 辞典を利用して、三字と四字の熟語を集め、その構成を考え、ノートにまとめ、発表し合う。 4. 切れ目に「／」を入れて、三文字以上の熟語の構成について話し合う。 5. 略語と、略す前の熟語とを比べる。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって熟語の由来に関心を持ち調べようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ① 五年生で学んだ漢字 ①	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	2	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 7. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 8. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
5～6	5 （書く2）	二 筆者の考えを読み、説明の仕方の特徴をとらえよう	□■雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討しながら読み、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめる。			
	5（書く2）	雪は新しいエネルギー	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒◎知技(2)イ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。⇒◎思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。⇒思判表C(2)ア	1・2 ○環境に関わる言葉を巡って話し合い、学習の見通しを持つ。 確かめよう 1. (1)「地球温暖化」や「異常気象」「再生可能エネルギー」などの言葉について、知っていることを話し合う。 (2)p.52⑥段落までを読んで、「雪はエネルギー」とはどのようなことか説明する。さらに、雪がエネルギーだとすると、どのように利用できるか、⑤段落の事例をヒントに話し合う。 3 考えよう 2. (1)筆者があげている雪エネルギーの利用について、事例ごとにその利用の仕方や利点などをノートにまとめる。 (2)筆者が、雪をエネルギーとして利用することを主張しているのはなぜか、「化石燃料」「再生可能エネルギー」という言葉を使って説明する。 (3)雪エネルギーの利用によって、筆者は、雪国の暮らしにどのような変化の可能性を考えているか、また、どのような課題があると言っているか、説明する。 4 深めよう 3. (1)筆者が、雪エネルギーの利用可能性を述べる際に取り上げている事例の順序を検討し、そのようにする筆者の意図について話し合う。 (2)筆者が、雪エネルギーの利用可能性を述べる際、克服しなければならない課題にも触れていることの効果を考え、話し合う。 5 広げよう 4. (1)「雪は新しいエネルギー」を読んで、筆者の考えや説明の仕方について、考えたことを文章にまとめる。 (2)書いた文章を友達と読み合い、感想を話し合う。 ○学習をふり返る。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cア） ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） 【態度】積極的に雪エネルギーの利用に対する筆者の主張と取り上げた事例の関係、残された課題などを検討し、今までの学習を生かして、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめようとしている。	
6	2	主語と述語の対応をみる	△主語と述語の対応を確認して、文のねじれに気づき、正しく直す。 △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒◎知技(1)カ	1 ○冒頭の会話文を通して、文を見直す際に主語と述語の対応を確認することが大事だということを知る。 1.教科書の例文を読み、どのように直せば主語と述語が対応するか理解する。 2 2.ねじれ文を修正することで、主語と述語の対応について理解を深める。 3.作文を書くときに、主語と述語の対応をよく確認しているかふり返る。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】積極的に主語と述語の対応について理解し、今までの学習を生かして、文のねじれに気づき、正しく直そうとしている。	

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
6	10 (話す聞く6, 書く4)	三 立場を決めて、主張を明確にしよう	◇■立場や意見をはっきりさせて話し合ったり、パンフレットを作成して伝えたりする。			
6	6 (話す聞く6)	地域の防災について話し合う	◇意見の違いを大事にしながら話し合い、考えを深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。⇒知技(1)キ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。⇒思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ ☆特別活動・総合的な学習の時間など：問題意識や互いの立場・主張を明確にしながら、計画的に話し合う。	1 2 3 4 5 6	○単元名やリード文を読み、お互いの意見を尊重し合いながら話し合うことについて考え、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 立場を決め、くわしく調べる。 (1) 教科書を読み、パネルディスカッションの意図と進め方を知る。 (2) 自分たちで話し合うテーマを設定する。 組み立てよう 2. 資料をもとに主張を組み立てる。 (3) 自分たちが設定したテーマにそって準備をし、パネルディスカッションを行う。 *テーマに対する観点とグループのメンバーを決める。 *グループで情報を調べたり、整理したりして、自分たちの主張をまとめる。 話そう・聞こう(重点) 3. パネルディスカッションを行う。 *司会者とパネリストを決め、フロアの役割を確認する。 (4) 2 回め・3 回めを行う。 伝え合おう 4. 感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) 【態度】粘り強く意見の違いを大事にしながら話し合い、学習の見通しをもって考えを深めようとしている。
6	4 (書く4)	パンフレットで知らせよう	■相手や目的に応じて内容や構成を考え、パンフレットを作る。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒◎知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間など：事物を紹介する活動でも活用できる。	1 2 3・4	○教科書を読み、どのようにパンフレットを作るのかイメージし、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 違う立場の人どうしてグループになり、知らせたい内容を話し合う。 組み立てよう(重点) 2. 書く分担を決め、構成を考える。 書こう・読み返そう(重点) 3・4. パンフレットを作り、読み返す。 伝え合おう 5. パンフレットを読み合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に相手や目的に応じて内容や構成を考え、学習課題に沿ってパンフレットを作ろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
7	1	漢字の広場 ② 複数の意味をもつ漢字	△複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味に関心をもつ。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒知技(1)エ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「象」という漢字の意味を考える。 2. p.80下段を読み、「象」という漢字には、もとの意味と、派生した意味をあわせもっていることを知る。 3. 「布」「針」を使ったそれぞれの熟語がどのような意味で使われているかを話し合う。 4. p.81下段の設問に取り組み、傍線の漢字がそれぞれどのような意味で使われているかを考え、違いを話し合い、辞典で調べる。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。(〔知識及び技能〕(3)ウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって複数の意味をもつ漢字が構成する熟語の意味を考えようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ② 五年生で学んだ漢字 ②	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒◎思判表B(1)イ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 6. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bイ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
7	7 (話す聞く2)	四 すぐれた表現の効果を考 えて、登場人物の心情を読 もう	□優れた表現を味わいながら、人物の心情を読 み、優れた表現についての感想を話し合う。			
7		川とノリオ	△比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 ⇒◎知技(1)ク △文章を音読したり朗読したりすること。 ⇒◎ 知技(1)ケ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接 続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種 類とその特徴について理解すること。 ⇒ 知技 (1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を 決め、集めた材料を分類したり関係付けたりし て、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表 A(1)ア ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話 し合い、考えを広げたりまとめたりすること。 ⇒思判表A(1)オ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写 を基に捉えること。 ⇒◎思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像した り、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判 表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の 考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)◎オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自 分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)◎カ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それら を聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり 、自分の生き方などについて考えたことを伝え 合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、生命がかけがえ のないものであることを知り、自他の生命を尊重 しようとする。	1 2～4 5 6・7	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 印象に残った場面を紹介し合う。 考えよう 2. 出来事の確認や、登場人物の変容、表現の工夫 や効果について考えたり話し合ったりする。 (1) いっ、どのようなできごとが起こったのか表に 整理する。川や川つぶちがノリオに対してどのよう な様子であったか考える。 (2) 物語の中で、ノリオはどのように変容したの か。なぜ変容したのか話し合う。 (3) 次のような表現を他にも探し、その効果につい て話し合う。 「比喩」「色」「体言止め」「擬人法」「音や様 子」「くり返し」 5 深めよう 3. この物語における「川」とは何を表しているの か、全体の構成や、「川とノリオ」という題名をも とに考える。 6・7 広げよう 4. 心に残った表現を見つけ、感想を話し合う。自 分の感じたことが伝わるように朗読する。 ○学習のふり返り。	◎【知技】比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ク) ◎【知技】文章を音読している。 (〔知識及び技能〕(1)ケ) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ) 【態度】進んで優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、優れた表現を味わいながら、人物の心情を読み、学習の見通しをもって優れた表現についての感想を話し合おうとしている。
9	2 (話す聞く2)	教えて！あなたの「とって おき」	◇話し手の意図を考慮しながら聞き、自分の意見 と比べて考えをまとめる。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがある ことに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる 語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を 決め、集めた材料を分類したり関係付けたりし て、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表 A(1)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じ て、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら 、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表 A(1)エ ◇インタビューなどをして必要な情報を集めたり 、それらを発表したりする活動。 ⇒思判表 A(2)イ	1 2	1. 知らせたい「とっておき」を考える。 (1) 教科書の例を参考にしながら、友達と共通点があり そうな質問の項目を学級で話し合う。 (2) 項目から三つ選び、エピソードを思い出す。 2. 話そう・聞こう(重点) 2. 「とっておき」について話す。 (3) 二人で組になり、エピソードを挙げながら順番 に話をする。 3. 感想を伝え合う。 (4) 友達のエピソードと自分の考えを紹介する。 (5) 紹介を聞き終えたら、感想を伝える。	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)ア) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 (〔思考力、判断力、表現力等〕Aエ) 【態度】積極的に話し手の意図を考慮し、今までの学習を生かして自分の意見と比べて考えをまとめようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	1	詩を味わおう イナゴ	□言葉の広がりを感じながら、詩の世界を楽しむ。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。⇒◎思判表C(1)イ □文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。⇒思判表C(1)オ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。⇒思判表C(2)イ	1	1. 一連と二連の「イナゴ」と「ぼく」の様子をもとに、詩の世界をイメージする。 2. 三連について考えたことを話し合う。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【思判表】「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cイ) 【態度】積極的に言葉の広がりを感じ、学習課題に沿って詩の世界を楽しもうとしている。
9	1 (書く 1)	「知恵の言葉」を集めよう	△生活の中で使われている知恵の言葉に気がつき、言葉の使い方への理解を深める。 △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒◎知技(1)オ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。⇒思判表B(2)ア	1	1 暮らしの中に、ものの名前や物事の手順を唱える言葉で覚える工夫があることを知り、教材文を読んで集めたり調べたりする意欲を持つ。 2 自分の知っている「知恵の言葉」や本で調べた覚え歌、ことわざなどを集めたり整理したりして友達と交流する。 3 自分の得意技や知っているコツを伝えやすいように「知恵の言葉」にして紹介し合う。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) ◎【知技】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) 【態度】進んで語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習の見通しをもって自分の「知恵の言葉」をつくろうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	5 (書く 5)	五 てんかいを考えて、表現を工夫して書こう	■写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作る。			
		物語を作ろう	△思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ △比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。⇒知技(1)ク ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。⇒思判表B(2)イ	1 2 3・4 5	○「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 決めよう・集めよう 1. 写真の中から登場人物を決め、人物設定をする。 (1) 写真を見て想像を広げる。 (2) 登場人物を選び、人物設定を「人物カード」に書く。 組み立てよう(重点) 2. 物語を組み立てる。 (1) 物語の大きな展開を考える。 (2) グループで話し合い、読者の視点も加えて構成を考える。 (3) あらすじを書く。 書こう・読み返そう(重点) 3・4. 物語を作り、読み返す。 伝え合おう 5. 友達と読み合い、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。(【知識及び技能】(1)カ) ◎【思判表】「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bイ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に物語のつくりの特徴について理解し、学習課題に沿って写真から想像を広げ、展開を考えて物語を作ろうとしている。
9	3 (話す聞く1)	会話を広げる	△相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、相手との言葉の掛け合いの工夫を考える。 △言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。⇒知技(1)ア △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。⇒知技(2)ア ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒思判表A(1)オ ◇それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。⇒思判表A(2)ウ	1 2 3	○相手とのつながりをつくる言葉のはたらきについて学習することを理解し、学習の見通しをもつ。 1. 会話をするときに話のきっかけとなる話題を作ること意識し、相手のことを考えて言葉を選ぶことの大切さを考える。 2. 言葉の内容だけでなく、言い方にも工夫が必要であることを考える。 3. 電話で相手が見えない場合の円滑なコミュニケーションはどうすればいいのか考える。 4. 同じ音である「うん。」でも込められる気持ちや言葉のはたらきが違うことを考える。 5. 相手が話すことを促すための工夫を考え、話し合う。 6. 会話の中でコミュニケーションを上手にとるための、話すときと聞くときの工夫を考え話し合う。 ○学習したことを振り返る。	◎【知技】言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。(【知識及び技能】(1)ア) ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(【思考力、判断力、表現力等】Bエ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(【思考力、判断力、表現力等】Bオ) 【態度】積極的に相手とのつながりをつくる言葉の働きを意識し、学習課題に沿って相手との言葉の掛け合いの工夫を考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
9	1	漢字の広場 ③ 熟語の使い分け	△意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分ける。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「大事」と「重要」の使い方の違いを考え、それぞれの文には、どちらがふさわしいかを話し合う。 2. 「経験」と「体験」等の使い方の違いを考え、二つの熟語の使い分けを考えたり、国語辞典などを利用してそれぞれの意味と用例を調べたりして、確かめる。 3. よく似た熟語を使って短文を作り、それぞれの違いを比べる。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって意味のよく似た熟語の使い方の違いを理解し、使い分けようとしている。
	1 (書く1)	漢字の広場 ③ 五年生で学んだ漢字 ③	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア	2	4. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 5. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 6. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bオ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

令和5年度 国語科年間学習（評価）計画 第6学年

令和2年度版『ひろがる言葉 小学国語 六下』

単元・教材のねらいと、「学習指導要領」に示された「指導事項」「言語活動例」から、あてはまるものを表示。重点指導事項には、◎を付した。

△知識・技能 思考・判断・表現 (◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと) ☆他教科との関連

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
10	—	六年生で学ぶこと				
10	12 （話す聞く3、書く2）	一 「心の世界」について考え、自分の考えを伝え合おう				
10	1	あなたはどうか感じる？	□友達と自分の感じ方の違いについて考える。 △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ	1	○単元名やリード文を読んで、学習の見通しをもつ。	◎【 知技 】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【 思判表 】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていく。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【 態度 】進んで文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、学習課題に沿って友達と自分の感じ方の違いについて考えようとしている。
10	7 （書く1）	ぼくの世界、君の世界	□筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、「心の世界」について考える。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒◎知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いていくとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ □事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に抑え、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 ⇒思判表C(1)ア □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア ☆道徳：自分と他の人には、その人なりの「心の世界」があることを知り、相手の立場に立ち、自分と異なる意見や立場を大切にすることを育む。	1・2	○単元名やリード文を読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1．筆者が取り上げた「心の世界」についてのさまざまな例を捉える。 (1)「昔から大真面目に議論されてきた問題」とはどのような問題か。文章中の言葉を使って説明する。「例えば」という書き出しで、前の部分の具体的な説明がされていることを確認する。 (2)筆者が「ぼくの世界、君の世界」についての考えを伝えるために、いくつかの例を出しているのかを確認し、電球、「あまみ」「痛み」、友達と好きなアニメについて話し合っている部分の四つが挙げられていることを捉える。 電球、「あまみ」「痛み」の例と、友達と好きなアニメについて話し合っている例をとおとして、筆者はどのようなことを言いたいのか、自分の経験も合わせて話し合う。 考えよう 2．筆者の主張に対しての自分の考えをまとめる。 筆者の主張である「心を伝え合うための努力が必要」という部分に対して、筆者があげている例で共感できる部分や共感できない部分はるか整理し、自分の考えをまとめる。 深めよう 3．共通理解をする体験から考えを深める。 (1)一枚の写真を見て、感じたことを一言で表現し、発表し合う。 (2)同じような感じを受けた者同士でグループになって質問し合い、互いの共通点と相違点を出し合う。 (3)全体で発表し合い、言葉で伝えることで感じ方の違いを理解し合えることについて考えをまとめる。 広げよう 4．『ぼくの世界、君の世界』を読んで考えたことをもとに、「自分の世界」について考えて書く。 (1)学習を振り返り、「心を伝え合うための努力」とはどのようなことか考える。 (2)「自分の世界」を140文字程度で書き表す。 ○学習をふり返る。	◎【 知技 】原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【 思判表 】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしていくとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【 思判表 】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ） ◎【 思判表 】「書くこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていく。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） 【 態度 】進んで筆者の考えに気をつけながら、文章の要旨を捉え、自分の経験をふりかえりながら「心の世界」について考えようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
11	6 (書く6)	二 説得力のある文章を書こう	■理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書く。			
11		自分の考えを発信しよう	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒◎知技(1)カ △原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。 ⇒知技(2)ア △情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。 ⇒知技(2)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。 ⇒◎思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 ⇒◎思判表B(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア ☆総合的な学習の時間など：文章を書く活動でも活用できる。	1 2 決めよう・集めよう 1. 課題を決めて、取材する。 3 組み立てよう 2. 自分の主張を効果的に伝える構成を考える。 4 書こう（重点） 3. 意見文を書く。 5 読み返そう（重点） 4. 意見文を読み返す。 6 伝え合おう（重点） 5. 友達と読み合って、交流する。 ○学習を振り返る。	◎【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（【知識及び技能】(1)カ） ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（【思考力、判断力、表現力等】Bウ） ◎【思判表】「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（【思考力、判断力、表現力等】Bエ） ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。（【思考力、判断力、表現力等】Bオ） ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（【思考力、判断力、表現力等】Bカ） 【態度】積極的に情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、学習課題に沿って理由や根拠を示して、説得力のある意見文を書こうとしている。	
11	1	漢字の広場 ④ 音を表す部分	△形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解する。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒◎知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. p.38「1」の設問にある文例を読み「清」「晴」「精」の共通点について考える。 2. p.39「2」の設問に取り組み、音を表す部分が、へん・つくり・かんむり・あし等のどの位置にあるか話し合う。 3. 文字によって音が違うものもあることを知る。 4. p.39「3」の設問をもとに、未習の漢字の読みを推測する。 5. p.39「4」の設問に取り組み、音を表す部分への関心を深める。 6. p.39「5」の設問を解き、同音の漢字を正しく使い分けようとする。 7. p.39「6」の設問に取り組み、音を表す部分を共通にもつ漢字の仲間を探し、ノートにまとめ、それぞれの漢字を使った熟語を集め発表し合う。	◎【知技】語句の由来などに関心をもっているとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（【知識及び技能】(3)ウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって形声文字について、音と意味、成り立ちも含めて理解する。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
	1 (書く1)	漢字の広場 ④ 五年生で学んだ漢字 ④	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ	2	8. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 9. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 10. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
11 ～ 12	8 (書く 2)	三 登場人物の変化を読み、 自分の考えをまとめよう	□登場人物の心情の変化を考えながら読み、想像 したことを書く。			
11 ～ 12		きつねの窓	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 ⇒思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ ■短歌や俳句をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思判表B(2)イ □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして、生命がかけがえないものであることを知り、自他の生命を尊重することについての考えを深める。	1 2・3 4・5 6 7・8	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 子ぎつねに対する「ぼく」の心情の変化をまとめる。 考えよう 2. 「窓」に移ったものや、「ぼく」と子ぎつねの「窓」に映ったものを比べて気づいたことをノートにまとめる。 深めよう 3. 不思議な世界に行ったことによって、「ぼく」にはどのような変化があったのか話し合う。 広げよう 4. 「窓」でどのようなものを見たいのか、理由と合わせて想像したことを書き、友達と読み合う。 ○学習をふり返る。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】進んで登場人物の心情の変化を考え、学習の見通しをもって想像したことを書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
12	6 (話す聞く2・書く2)	書評を書いて話し合おう	△これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き、紹介し合う。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒◎知技(1)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。 また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 ⇒知技(1)カ △日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。 ⇒◎知技(3)オ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見を区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒◎思判表A(1)イ ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 ⇒◎思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表A(1)エ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。 ⇒思判表C(1)カ ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 ⇒思判表C(2)イ ☆図書館指導：友達に紹介された本を探して読む。	1・2 3 4	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 決める・集める 1. 自分が紹介しようとする本を読む。 組み立てる・書く 2. 自分の考えを整理して書く。 伝える・伝え合う 3. 書いた文章を紹介し合い、互いに感想を交流する。	◎【知技】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。(〔知識及び技能〕(3)オ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aウ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしてるとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ) 【態度】進んで書き表し方に着目して文を整え、これまでに読んだ本の中から好きな本について書評を書き、紹介し合おうとしている。
12	2	敬意を表す言い方	△話す相手や場面に応じて、敬意を表す言い方を適切に使い分ける。 △日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。 ⇒◎知技(1)キ	1 2	○冒頭の会話文を通して、敬意を表す際に様々な言い方があることを知る。 1. 教科書を読み、敬意を表す言い方としてどのような言い方が適切か理解する。 2. 場面や相手に応じて、敬意を表す言い方として適切な言い方を選ぶ。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】日常よく使われる敬語を理解し、使い慣れている。(〔知識及び技能〕(1)キ) 【態度】積極的に語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、学習課題に沿って敬意を表す言い方を適切に使い分けようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項（１）・言語活動例（２）〉	時	学習活動	評価規準
1	2 (話す聞く１・書く１)	言葉と私たち	言葉に対する自分の考えを書き、言葉への関心を持つ。 △話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒知技(1)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 ⇒知技(1)ウ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 ⇒思判表A(1)ア ◇話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。 ⇒思判表A(1)イ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(1)ウ □目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。 ⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ⇒思判表C(1)オ □説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。 ⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用して、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。 ⇒思判表C(2)ウ	1	1. 自分たちにとって言葉とは何か考えてみる。 2. 教科書の三人のメッセージを読み、それぞれについての感想を交流する。 2 3. 言葉に対しての自分の思いを書く。 4. 書いたものをグループや学級で交流して言葉についての興味や関心を深める。	◎【知技】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)イ) 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aイ) 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bア) ◎【思判表】「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Cウ) 【態度】粘り強く論の進め方について考え、学習の見通しをもって言葉に対する自分の考えを書こうとしている。
1	1	漢字の広場 ⑤ 同じ訓をもつ漢字	△異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分ける。 △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 ⇒◎知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 ⇒知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. p.74上段の設問にある文例を読み「あける」の意味や使い方について考える。 2. p.74下段の設問に取り組み、言葉の意味や漢字の使い方を考えて話し合う。 3. p.75上段の「つとめる」「はかる」について、辞書を使い、適切な漢字を選ぶ。 4. p.75下段の言葉を使って文を作り、ノートにまとめ、発表し合う。	◎【知技】・思考に関わる語句の量を増し、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。(〔知識及び技能〕(1)オ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって異字同訓について理解を深め、関心をもつとともに正しく使い分けようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
	1 (書く1)	漢字の広場 ⑤ 五年生で学んだ漢字⑤	△絵を見て想像したことをもとに、5年生で学んだ漢字などを使って文を作り、書く △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。⇒◎知技(1)エ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒思判表B(1)カ ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ	2	5. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 6. 4年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 7. 互いの作った文を読み合い、感想や意見を述べ合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。(〔知識及び技能〕(1)エ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題に沿って、教科書の絵を説明する文を書こうとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
1～2	11 (書く3)	四 伝記を読んで、人物の生き方について自分の考えをまとめよう	□伊能忠敬の生き方を考えたあと、興味のある人物の伝記を読んで、その人物を紹介する。			
1～2		伊能忠敬	△文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →知技(1)オ △文の中の語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。 →知技(1)カ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ □登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。 →思判表C(1)イ □人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 →◎思判表C(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 →◎思判表C(1)オ □文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること →◎思判表C(1)カ ■事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)ア □詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。 →思判表C(2)イ ☆道徳：伝記の読みをとおして、より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする気持ちをもつ。	1 2・3 4・5 6・7 8～11	○単元とびらを読んで、学習の見通しをもつ。 確かめよう 1. 時を表す言葉や年齢を手がかりに、伊能忠敬の人生を年表に整理する。 考えよう 2. 伊能忠敬がどのような人物なのか（性格・ものの見方・考え方など）がわかる文を選んで、伊能忠敬の人物像を話し合う。 深めよう 3. 伊能忠敬の生き方で深く考えさせられたことをまとめて、それについての自分の考えを、ノートに書く。 広げよう 4. 伊能忠敬について、どのような人物なのかの紹介と、その生き方についての自分の考えをポスターにまとめて、友達と読み合う。 ◎学習をふり返る。	【知技】文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ） ◎【思判表】「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cエ） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cオ） ◎【思判表】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（〔思考力、判断力、表現力等〕Cカ） 【態度】積極的に原因と結果など情報と情報との関係について理解し、学習課題に沿って伊能忠敬の生き方を考えたあと、興味のある人物の伝記を読んで、その人物を紹介しようとしている。
2	2	日本語の文字	△日本語の文字の由来や特徴に関心をもち、適切に使い分けができる。 △語句の由来などに関心をもちとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 →◎知技(3)ウ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いにも注意して書くこと。 →知技(1)ウ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。 →思判表A(1)ア ◇意見や提案など自分の考えを話したり、それらを聞いたりする活動。 →思判表A(2)ア	1 2	○日本語は、さまざまな文字を使って書き分けられていることを知り、学習活動に対する見通しをもつ。 1. 漢字の由来・特徴について理解する。 2. 平仮名と片仮名の由来・特徴について理解する。 3. ローマ字の由来・特質について理解する。 4. 日本語の文字と外国語の文字との違いについて理解する。 5. 日常生活の中で、日本語の文字がどのように使われているかを話し合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】語句の由来などに関心をもち、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解している。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。（〔思考力、判断力、表現力等〕Aア） 【態度】積極的に日本語の文字の由来や特徴を理解し、今までの学習を生かして適切に使い分けようとしている。

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2	1	漢字の広場 ⑥ さまざまな読み方	△同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもつ。 △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。 →知技(1)ウ △第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 →知技(1)エ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。 →◎知技(1)オ △語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づき、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。 →知技(3)ウ	1	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 1. 「上手」を例に、意味によって読み方が変わる言葉（同形異語）について知り、それぞれの意味や感じ方の違いを比べる。 2. p. 108下段の設問に取り組み、話し合う。 3. 「特別な読み方の言葉」（熟字訓など）について知り、p. 110の一覧表を使って、どのような言葉があるのか確かめる。 4. 「降」「背」「夜」「尊」など、複数の訓がある漢字（同字異訓）の読み分け方について関心をもつ。 5. p. 155からの「小学校で学んだ漢字」をもとに複数の訓がある漢字を探し、送り仮名に注意し、表現の効果などについて確かめたり、工夫したりして文を書き、友達どうして読み合う。 ○学習したことをふり返る。	◎【知技】思考に関わる語句の量を増し、話の中で使っているとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習の見通しをもって同形異語や熟字訓、同字異訓についての理解を深め、言葉の使い方に関心をもつ

月	時数	単元名・教材名	単元／教材の目標 学習指導要領との対応 〈学習事項(1)・言語活動例(2)〉	時	学習活動	評価規準
2～3	8 (話す聞く4・書く4)	五 出会った言葉を振り返ろう	◇■□卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出会いの希望を持つ。			
2～3		ひろがる言葉	△話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ⇒◎知技(1)イ △文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。⇒知技(1)ウ △思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。⇒知技(1)オ △文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。⇒知技(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒◎思判表A(1)ア ◇資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。⇒思判表A(1)ウ ◇話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。⇒思判表A(1)エ ◇互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。⇒◎思判表A(1)オ ■目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。⇒思判表B(1)ア ■筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。⇒思判表B(1)イ ■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒◎思判表B(1)ウ ■引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。⇒思判表B(1)エ ■文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。⇒思判表B(1)オ ■文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。⇒◎思判表B(1)カ ◇目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。⇒思判表A(2)ア ■事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。⇒思判表B(2)ウ	1	1. 六年間の言葉の学びを振り返りながら、「卒業式で自分におくりたい言葉」を選ぶ。 2. 自分で選んだ言葉をグループ内で交流する。 3. 選んだ言葉を工夫して表現する。 4. 様々な表現方法で選んだ言葉を交流し、みんなの思いを共有する。	◎【知技】話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。 (〔知識及び技能〕(1)イ) ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aア) ◇「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Aオ) ◎【思判表】「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしているとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりしているなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bウ) ◎【思判表】「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(〔思考力、判断力、表現力等〕Bカ) 【態度】積極的に卒業を前に六年間の言葉の学びを振り返り、成長を自覚するとともに、中学校での新しい言葉との出会いの希望を持つとしている。